

## 令和6年度 名桜大学公開講座報告書

講 座 名	ハブ対策講座
申 請 者 氏 名	新垣裕治
講 師 名 (所属機関)	寺田考紀 (沖縄県衛生環境研究所 衛生科学班 (ハブ担当) 主任研究員)
日 時	令和6年6月13日 (木) 18:15~19:45
講 座 の 概 要 及 び 所 感	<p>対面とオンライン (Zoom) によるハイブリッドでの講座を実施した。ハブとアカマタは生体、また、タイワンハブは剥製、それに沖縄で捕獲された最大ハブ (242 cm) の実物大のぬいぐるみも持参を頂き、実物を見て、ぬいぐるみに触れ理解できる工夫のなされている講座であった。</p> <p>講座は沖縄のヘビ、ハブの毒と被害、ハブの特徴と生態、及びハブ対策のことについて話して頂いた。前半では、外来種のタイワンハブの名護及び周辺部での分布の変遷について捕獲調査結果を基に説明をして頂いた。毎年分布は拡大し、現状としては、名護市内、本部町や今帰仁村にも広く分布していることが示された。東海岸の辺野古地区でも生息が確認されていた。</p> <p>外来種ではタイワンハブ以外にペットで飼われている珍しいヘビも捕獲されていることやこら外来種ヘビ類が在来の生態系に与える影響についての説明があった。</p> <p>講座では、ハブの特徴と習性を沖縄在来アカマタやリュウキュウアオヘビ等無毒蛇との比較、また、ヒメハブ等の有毒蛇類との比較しながら説明して頂いた。沖縄のハブ対策の現状として、ハブネットの設置、屋敷周辺の石垣をセメント塞ぐことや、ネットで覆うこと等の環境整備が重要であることや市町村でのハブ捕獲器の貸し出し制度やハブノック・ネオ (蛇類の刺殺スプレー) の紹介をして頂いた。</p> <p>沖縄のヘビ類、ハブ類の現状、移入ヘビ類の現状を理解できた、環境教育の観点から非常に有益な公開講座であった。</p>
参 加 人 数	23名 (オンライン参加者9名を含む)